

Cash For Work Project キャッシュ・フォー・ワーク



(認定NPO法人 国際ボランティアセンター山形)
理事 阿部 真理子

そこで、3月14日に
「東北広域震災NGOセンター」を
設立。

団体・企業・グループの
ゆるやかなネットワーク。

人・情報・物資・資金を共有して活動。

当初7つの自治体、企業、IVYで始まったセンターも、70を超える組織の集まりに。

認定NPO法人国際ボランティアセンター山形＝ IVYとは？

カンボジア部門

農村開発。女性組合設立、野菜の共同出荷など

ファンドレイジング部門

東北広域震災NGOセンター

外務省NGO相談員
(東北6県担当)

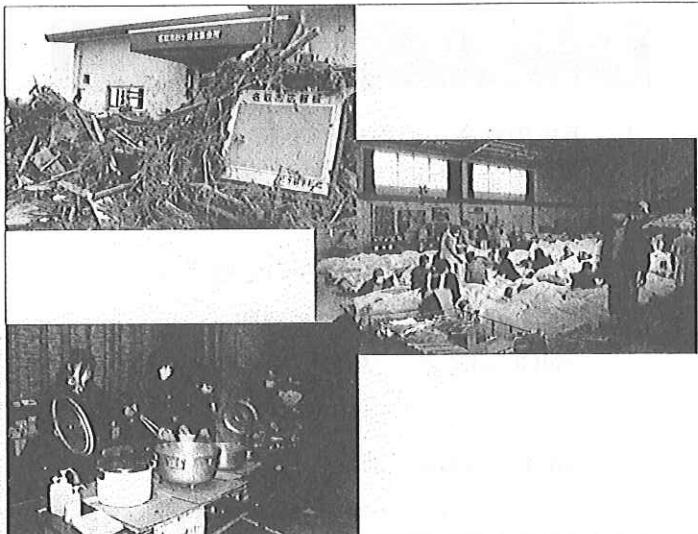
事務局 IVYyouth

外国人支援部門

日本語教室・医療通訳・生活相談など

国際理解教育

環境教育部門
地球子どもキャンプなど



なぜ支援に入ったか？

- 所在地が、山形 →高速道路が使える
- 周囲からの声
- 20年近い国際協力活動のスキル
- 阪神淡路大震災の救援活動の経験
- 東北のNGOとして (NGO相談員)

兵庫県加古川市から、物資を積んでやってきた2トントラック。
3月21日に山形到着。その後、物資配達の協力も。



物資を届けるまでの流れ

避難所に物資を配達をしながら、足りない物資を聞き取る

聞き取つたら、すぐに電話で、山形のIVY事務局に連絡

当初は、山形の事務局で調達。
翌日の朝、積込み、被災地に届けるシステム

その後、東松島市次に石巻市に物資の拠点を確保し、物資の配達を続けた。

ボランティア IVYの場合

1. 原則として、新規でボランティアの募集は行わなかった

2. 日頃の活動に参加している学生が中心

3. すぐに活動出来る

→何らかの活動経験が必要

物資の調達は？

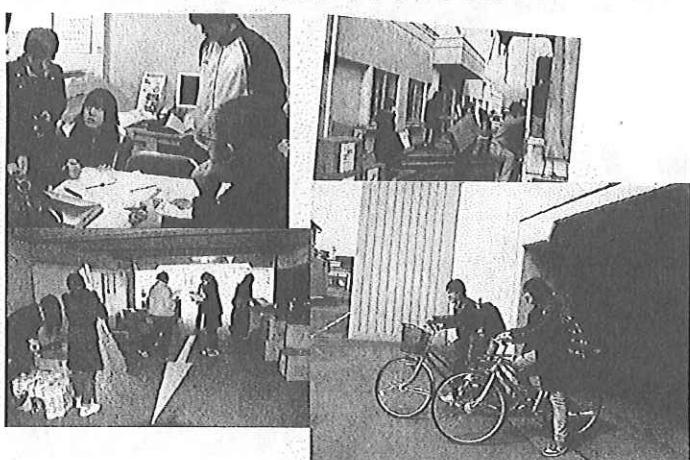
1. 市民の皆さんに声をかける
→ある企業が窓口になり、集めてくれた。
 2. 山形市内で購入
→ボランティアの学生が自転車で
 3. 全国的なネットワークを利用
→NGO相談員、JANIC、DEAR、実践者など
- 山形で手に入らない物がたくさんあった！
- * 海外からの物資支援の申し出も・・・
もちろん、もう一つ大事なあります...

支援物資は…

- 混乱していると思われる県を通すより、量がまとまっていれば、各市町村に直接行って渡す。
- 中途半端な量の場合は、許可を得たのち、自分たちで避難所を選んで届けた方が良いと判断。(3月16日)

公平の原則から、数量が足りない場合、行政は避難所を選ぶことができず物資が滞留してしまうが、民間の団体であれば臨機応変に、配達する避難所を選択することが可能。

ボランティアの活躍に助けられました！！



避難所を回るうちに、「仕事をしたい」「職がほしい」という声が、数多く聞かれるようになった。



そこで、被災者の「雇用を創出する」ことを目的として、
「キャッシュ・フォー・ワーク」
事業を開始。

(石巻市4月12日、気仙沼市4月22日)

キャッシュ・フォー・ワークとは? (cash for work)

災害地等において
被災者を復興事業に雇用し、
賃金を支払うことで、
被災地の円滑な経済復興と、
被災者の自立支援につなげる、
国際協力の手法。

IVYのキャッシュ・フォー・ワーク の特徴

1. 誰でも出来る仕事から始めた
2. 若い年代が中心
3. 社会貢献の意識が高い
4. 仲間意識が強い
5. 資金は全て、国内外からの寄付、ファンド

「キャッシュ・フォー・ワーク」

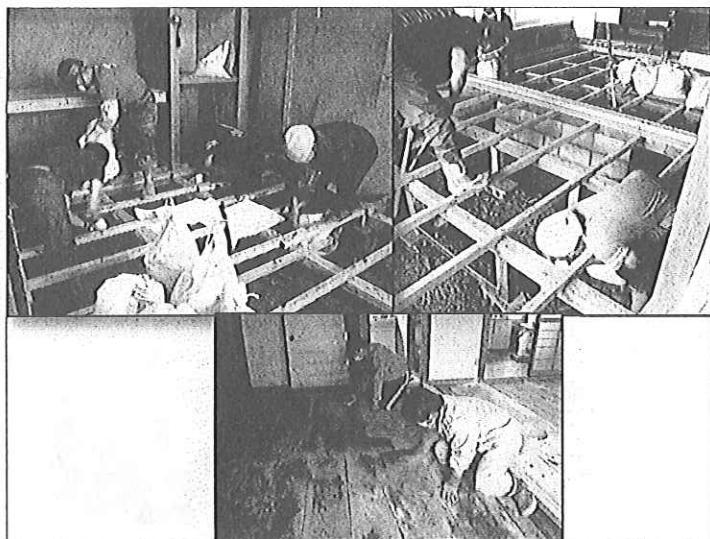
雇用者は 震災により、職・職場が
無くなってしまった方
地元に住んでいる方

仕事は 避難所にて、泥かきが
出来ずに帰宅出来ない
高齢者宅の泥かきから
始めた。

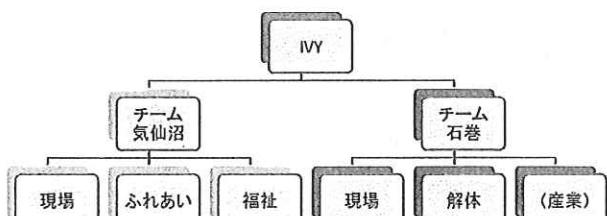
現在のキャッシュ・フォー・ ワークのエリア



North Area(気仙沼)&South Area(石巻)
で、被災地域の人を「雇用」

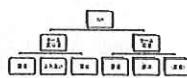


チーム編成



10月末までの
採用者 93名
泥上げ箇所 277箇所

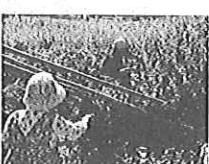
team 現場 & team 解体



ガレキ撤去・泥かき



倒溝の泥上げ



草刈り



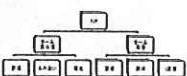
解体

地域のために汗を流し、

ここから これから 第3・4フェーズの意気込み: 2つのポイント



team 朝市 & team 福祉



朝市



お茶会



ラジオ体操



物資配達

笑顔と繋がりを取り戻します。

①雇用者発信のプロジェクト



➤ 雇用者が今後取り組んでいきたいと思う事業があれば、

自ら、企画・立ち上げから実施まで行うことの出来る環境を強化していく

キャッショ・フォー・ワーク活動を通して

我が家が全壊して途方に暮れていたところ、親切に助けてくれた。ありがとう。

「ありがとう」と言わるとヒーローになった気分。気持ちを強く持てた。感謝される仕事をずっと続けたい。

同じ震災の経験をして、同じ方言を話す若者が、親身になって話を聞いてくれた。

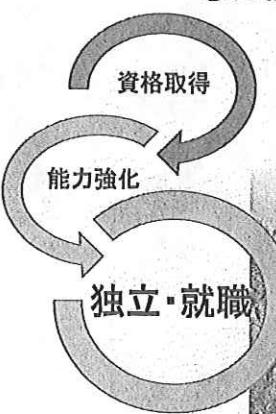
生まれ育った地域のために働くということの素晴らしさに気がついた。

依頼した片付けは終わったけど、道ですれ違うと挨拶してくれる。

仲間ができた。この土地を離れようと思っていたが、もう少しここでがんばってみたい。

→そして次のフェーズへ。

②再就職・独立支援



地域のために働いてきたメンバーたち、未来に向かって歩き出すために・・・。

